新学長インタビュー

荒川一郎学長

（任期　令和2年4月1日～令和6年3月31日）

原則登校禁止が続く、前期も気付けば中盤。この状況下、4月より本学の第13代学長に就任した荒川一郎教授は、何を思うのか。現状から見える本学の課題とその解決策を伺った。

―ご就任おめでとうございます。率直な感想をお聞かせください。

次期学長に選ばれた時はとても驚きました。井上寿一前学長と6年間、一緒に大学の運営にあたり、大学の動向と問題点は把握していたので、それを引き継ぐことにしました。大変だとは思いますが頑張ります。

―大学運営の方針について教えてください。

研究や教育を行う環境をより良くし、それを維持することが基本の方針です。現在、学生が過ごす場所は限られており、不自由に感じる学生も多いでしょう。2023年4月に竣工予定の新東1号館は、学生が集う場として皆さんの期待に添えるものになると思います。

また、遠隔授業導入で浮き彫りになった、学内の通信環境の脆弱さも改善したいですね。

―本学の魅力についてどうお考えでしょうか。

まず、学生と教員の距離が近い点です。他大学と比べて中規模で、地理的にもコンパクトにまとまっています。礼儀正しく優しい学生が多く、教員は優れた研究成果を出している。そうした環境で学べることも魅力の一つでしょう。

―学長は理学部所属ですが、文系学生に求めることはありますか。

すでに、社会は文理によらずITリテラシーを求めています。初等情報処理のみならず、より充実したIT教育の構築や、より高いレベルを目指した、情報技術に関連する副専攻などの制度も考えています。

また、文系学生には、考えや思想を言葉にして皆が理解できるものにする、という理科的な考え方を知ってほしい。逆に理系は、そうでない世界があることを知る必要があるでしょう。

―オープンキャンパス等の中止で、受験生への宣伝が難しい中、どのように対応していきますか。

例年のような大規模なオープンキャンパスの開催は難しいかもしれません。ウエブオープンキャンパスなどでの広報活動を考えています。また、今年は厳しいですが、教員自らが日本中で、講演会を通して本学の宣伝をしていきたい。実際に、初代学長の安倍能成先生は、学生を集めるために、ご自身が日本中を回り講演をなさった。それにならい、学習院の良さを全国に伝えていくつもりです。

―学生に向けてメッセージやエールをお願いします。

今は大学での講義が困難な状況。緊急事態宣言は解除されましたが、前期は基本的に遠隔授業が続きます。しかし、勉強するのは学生本人。自主的に取り組んでほしいですね。各々自覚をもち、何をすべきか考えてください。我々も、本来、対面授業で皆さんに与えたかったものを、一所懸命提供していきます。

（取材・構成　堰端桃子・畑尻健太郎）

PROFILE
荒川一郎（あらかわいちろう）
東京大学工学部物理工学科卒業後、日本真空技術株式会社勤務。79年、東京大学生産技術研究所助手。84年、本学理学部専任講師。86年、同助教授、94年、同教授。14年、本大学副学長、18年、理学部長を経て、20年4月1日より、大学長に就任。専門は、表面物理学、真空科学。

学習院研究最前線

学問研究の「いま」

住みやすい街の実現へ

県庁職員の経験を生かして

法学部政治学科　伊藤　修一郎　教授

◇　◇　◇

地方政治・公共政策を専攻し、主に政策過程・実施に関する研究を行っている伊藤先生。今回は先生の公務員時代やこれまでの研究、近著、現在の問題意識について伺った。

（取材・構成　横山浩人・小泉凛太郎）

県庁勤務を経て研究者の道へ

先生は、大学で法律学を専攻していた。将来は、公務員か、海外で活躍できる仕事に就きたいと考えていたそう。大学卒業後は、神奈川県庁に入庁。そこで先生は、米国の行政大学院で学ぶ機会を得た。すでに社会経験を積んでいたため、学びのモチベーションが高く、「食事と睡眠時間以外は勉強に打ち込む日々を送りました」と当時を振り返る。

県庁に戻ってからは、学んだ知識を改革案として提言し、そのいくつかは県の政策に活かされた。その後、県庁を退職。研究者の道へと進んだ。

研究者になった当初は、県や市の政策決定とその過程に関する研究を行った。現在は、地方自治体が決定した政策の実施に関する研究に取り組む。

近著について

近著では、屋外広告物規制に関する研究成果を記した先生。屋外広告物は、役所の掲示許可が必要だが、違反も多い。先生はここに注目して「規制を公平に執行するには、しっかり違反を取り締まるべきだし、それが難しいなら規制を緩めることも検討すべきです」と提言した。

総合計画の問題点

先生は、県庁の企画部で、総合計画の作成および実行に携わっていた。総合計画とは、地方自治体が計画的な行政運営を行っていくための基本となる計画のことである。先生は、この問題点について「総合計画は膨大で、住民に読まれないことがほとんどです。もっと、シンプルで分かりやすいものを作るべき」と述べる。今後の研究対象の一つとのことだが、理想的な総合計画を明言するのは難しいようだ。

学生へのメッセージ

大学時代に、病に倒れた経験をもつ先生は、学生に次のようなメッセージを送った。「めげずに、気長に頑張ってほしい。不本意な回り道でも、後々役に立ってくることもあります。あまり一喜一憂しないでください」。

地方自治体が、いかに我々の生活に密接に関わっているかを、改めて実感する現在。国と地方の関係性を再考する良い契機だ。今後も、地方政治の研究は終わりを見ない。

MOS講座にかける想い

豊久凌仙氏にインタビュー

皆さんは、MOS資格をご存知だろうか。これは、Microsoft Office Specialistの略で、パソコンスキルを証明するものだ。㈱RabbitWayは、大学や企業でMOS資格講座を運営し、学習院さくらアカデミーでも講座を開催している。今回は、同役員の豊久凌仙氏に、起業のきっかけや、講座の魅力についてお話を伺った。

起業のきっかけ

豊久氏は、学習院高等科、学習院大学経済学部経営学科出身（平成28年卒）。高等科の文化祭で、スマ部（ゲームをする部屋）を友人と企画したところ、担任の先生から「仕事を創り出すのに向いているのではないか」と褒められたそうだ。その際、器を作ると勝手に水が流れてくる、つまり、会社を作れば人が集まることを教えてもらったという。それがきっかけで、大学一年生の時に起業したと話す。

インターンシップの経験

豊久氏は、大学時代パソコン操作が苦手だったことから、MOS講座の開催を検討していた。二年生の時には、パソコンの資格対策講座を運営する会社で半年間、インターンシップを経験。「説明会や講師のアシスタントの体験を通して、学生を惹き込む話し方や、パソコン操作で学生がつまずきやすい点を学べました」と当時を振り返る。

講座の魅力

RabbitWayの講座の特徴は教室の雰囲気にある。講師は、約30名の生徒の顔と名前を一致させているそうだ。豊久氏は、「講師との距離が近いので、受講生は気軽に質問することができます」と講座の魅力を語った。

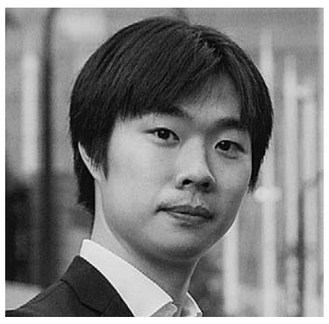
学生にメッセージ

資格の意義を常に問い続ける豊久氏。就職活動に活かすだけでなく、そこで得たスキルをどう活用するかが重要だという。さらに「自分の興味がある講義や、他学科の授業も履修すると、多面的に考える能力が身につきます」と語る。

最後に

自宅時間が増え、資格習得を考える学生も多いだろう。MOS資格はその中でも、全職種に関連する。ぜひチャレンジしてほしい。

（清水彩花・吉田愛）


RabbitWay役員の豊久氏

MOS講座の様子

学習院ぶらり

都心にありながら、緑豊かな敷地をもつ本学。新コーナー「学習院ぶらり」では、構内の穴場スポットを紹介する。

今回取り上げる「血洗いの池」は、輔仁会館と黎明会館の間の階段を降りた先にある。江戸時代、赤穂浪士の堀部安兵衛が、血刀を洗ったという逸話から、この名がついた。

木造の橋が架かり、鯉が悠々と泳いでいる。一人で心を落ち着かせたい時に最適だ。池の周りは足場が悪いので、日没前に行くことを勧める。

血洗の池

春には桜、秋には紅葉した木々が水面に映り、季節によって様々な雰囲気を味わえる。入構自粛が解除されたら、ぜひ訪れてほしい。次号は、「ピラミッド校舎のモニュメント」を紹介する。

（清水彩花）

紙面紹介

4 体育会、部活動紹介

体育会部活動の紹介を兼ね、本学の誇る、特色豊かなそれぞれの部活動へお話を伺った。各部活動の魅力へ迫っていく。

2 アフターコロナで世界はどう変わるのか

3 見どころ満載！中欧旅行特集

学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588 東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221 内線 2607

発行・編集人　井ヶ田友一
年間500円

BOOKS KINOKUNIYA
紀伊國屋書店
学習院大学ブックセンター
2019.10.01
GRAND OPEN
☎03-5953-4420

学習院大学新聞社
@gakushuinpress
一緒に新聞を作りませんか？
新入部員随時募集中！
気軽にfollow me!

明怒浄机

私は幼少期から要領が悪い。勉強、楽器、スポーツ。様々なジャンルに触れてみたが、何をやっても手際が良くない▼自分が頭の悪い人間だと気がついたのは、中学受験を控えた小学5年生の頃だった。周囲と同じように、毎日塾で勉強しているはずなのに、テストの解答用紙は、当てずっぽうの数字だらけ。夜の11時を過ぎても、算数の課題が終わらず、ひとりだけ塾で居残り勉強。そんな小学生時代を過ごしたことで、私はいつからか、周囲に毒を吐くようになった▼毒を吐くことは、私自身の気持ちを清々しくするだけでなく、周囲が私自身を面白がってくれる唯一のことだった。大人しそうな私の容姿と内面とのギャップが可笑しかったのだろう▼しかし、ここ数年は、そんな自分が心底嫌いだ。もっと明るくポジティブな言葉を発したい。人を傷つけることの何が面白い。度を越したネガティブ思考だと思われるかもしれないが、常にこんなことを考えているのが今の私だ▼毒舌家と呼ばれる私でも、昨今のSNSにおける罵詈雑言には胸がつまる。そもそも人は、誰かの長所よりも短所に目がいきがちだ。これは自分に対しても同じだと思う。それなのに、自分を否定される言葉を投げかけられたり、乱暴な態度をとられたりすることは、何よりも辛く、胸が張り裂けそうになる。こんなにも単純明快な人の心理を理解できない間抜けな人間の、なんと多いことか▼私は今、SNSで人と繋がっていない。相手を傷つける可能性をなくせるし、友人に対して嫉妬もしなくて済む。私の知りたいことだけ知れたら十分だ。どうか私の周囲だけでも、いつまでも長閑であってほしい。（真）

おことわり

今月号の「情報特急便」は、お休みさせていただきます。

31st
東京学生映画祭
TOUGAKU-SAI
第31回東京学生映画祭
2020/10/15（木）16（金）17（土）
渋谷・ユーロライブ
Twitter:@tougakusai　HP:tougakusai.jp/

世界に危機をもたらした新型コロナウイルス。終息まで2・3年を要するとされているが、社会が日常を取り戻すとき、世界の在り方や価値観はどう変わるだろうか。

『9月入学』を考えよう

世界の様相を大きく変えた新型コロナウイルス。感染拡大により、医療、政治、経済、金融、雇用などに与えられた影響は計り知れない。

日本では5月25日に緊急事態が終了した旨宣言されたが、多くの人が集まるイベントの自粛が要請されるなど、全国で対応に追われている。日本政府は国民1人あたり10万円を支給する特別定額給付金事業や、全世帯に布マスクを2枚届けるなど様々な対応を講じている。

新型コロナウイルスが「教育」に与えた影響はいかがなものか。3月から全国の学校では休校が続いていたが、登校人数を制限する等の対策を打ち、再開する学校も見られるようになった。だが、教育の遅れが指摘され、「9月入学」を採用する必要があるのではないかという議論が活発になった。ここでは「9月入学」について考えていこう。

世界的には9月入学の国が圧倒的に多く、日本のように4月入学の国は少数派である。日本は明治19年に国の会計年度が「4月～3月」になると、文部省（当時）の指示で、会計年度に合わせる形で次第に4月に揃えられた。

制度の変更は容易ではなく、多くの法律の変更や制度改革が必要となる。また、制度面だけではなく実際の教育現場の声にも耳を傾ける必要があるだろう。入学時期が変われば、今までの同級生と学年が変わる、変更の際に生じる空白期間をどう扱うのか等、課題は山積している。

実際、判断に時間がかかっているだけに、学校が再開している地域、当面はオンライン授業を行う地域があるなど、既に対応に差が生まれてしまっている。

9月入学を導入するメリットも考えられる。欧米などと足並みが揃い、留学生の受け入れが容易くなることや、海外留学がスムーズになる等が挙げられる。

9月入学の導入に賛否があるのがこの問題の難しい点だろう。私たちの世代が将来、コロナ世代として不利益を受けないようにしっかりと議論を重ねた上で、導入するか、しないのかを決定して貰いたいと切に願う。そして、我々はこの様な事態でも、変わらず積極的に学ぶ姿勢を持ち続ける事が大切になるだろう。

（夏目拓真）

環境と経済　どう両立？

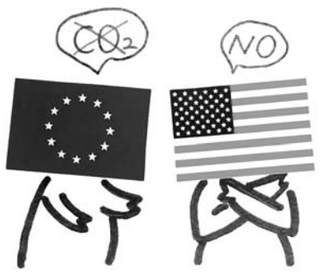
世界恐慌に匹敵すると言われるコロナ不況。感染拡大のピークを過ぎた国では、経済再建の道を模索している。その中で環境問題との両立も同時に求められることとなる。今年から温暖化対策の国際枠組「パリ協定」の運用が開始されたものの、経済復興を優先するあまりその対策が停滞してしまう懸念が存在する。そしてCOP26と呼ばれる第26回国連気候変動枠組条約締約国会議も来年へ延期されることとなった。環境と経済の双方をどのように両立させればよいか。注目すべき点についてここでは取り上げたい。

まず初めに、新型コロナウイルス蔓延後のエネルギー事情について振り返る。化石燃料の消費量が、感染拡大による都市封鎖や航空機の運航停止で急減している。その結果、今年のエネルギー関連の二酸化炭素の排出量は、前年比8％の減少になると国際エネルギー機関は予測する。しかし、問題はここからだ。今後景気刺激策が行われると、温室効果ガス排出量が元の水準に戻る可能性が非常に高い。リーマンショック時にも、一時は減少したエネルギー排出量が経済再建政策によって元の水準に戻る「リバウンド」という現象が発生している。

この教訓を活かすべく、様々な機関が環境への取り組みを模索しているが、そだが、様々な企業で具体的に議論されている「ESG」という考え方をここでは紹介する。現代の企業の長期成長のためには、ESGが示す3つの観点「環境・社会・ガバナンス」が必要だという考え方が世界的に広まっている。これらの観点が薄い企業は長期的な成長が見込めない、リスクを抱えた企業だということを意味する。つまり、現在の企業は短期的な利益を追求するだけでなく、社会の持続に寄与するということが求められるよう変化している。

このように振り返ると、大不況からの復興が求められる中で、経済再建と環境政策両立への道のりは長い。そして、これらをグローバルレベルで足並みを揃えることはかなり厳しいものとなっている。未曽有の危機の中、各国はアメリカのように自国主義に走る傾向も見られる。今回の難局はこの流れを食い止める大きなチャンスともいえる。経済を優先するあまり度が過ぎた環境破壊が行われれば私たちの生活も脅かされる。国家間でのより積極的な働きかけが必要となるだろう。

（門馬清登）



記者の眼

都市集中から地方・地域分散へ

新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、テレワークやオンライン会議などが急速に広まった。それらが継続すれば、これから就職する人は、職種によっては「自宅」で仕事をすることが可能になるだろう。

では将来、私達はどの場所に「自宅」を構えることになるのだろうか。実家や移住先に身を置くのか、はたまた色々な場所を渡り歩くのか、選択肢は多様にある。

現在まで、就職や進学を機に首都圏に転入する若年層の数は増加傾向にあり、それは「東京一極集中」の主な原因の一つとされてきた。ただ、察するに進学による転入を減少させるのは容易なことではない。一方で、在宅勤務の可能性が掘り起こされた今、それが定着すれば、通勤電車に揺られたり会社近くに移住したりする必要はなくなるだろう。

「東京一極集中」が緩和し、「地方分散」という形が実現した場合には、首都直下型地震や新たな感染症が流行した際の危険性の低下、さらにはラッシュ時の満員電車の解消などが見込まれるだろう。また、「地方」といえど地方における「地域」間の格差を忘れたくはない。地方にも都市部や観光地に近い場所と過疎化の進んだ地域とがある。人口差や交通網の発達具合など、さまざまな地域間の格差があることは否めない。そのような場所に住むメリットもある、地域の魅力というものが充分に周知されてはいないのではないか。

地方という選択肢

話を戻すが、皆さんは自分で生活する場所を決められるとしたら、どこを選ぶだろうか。やはり、中心都市から大いに離れた農村部や過疎地域が選ばれることは稀であろう。

政府は、2014年に「地方創生」を打ち出している。東京一極集中の是正や地方の人口減少の抑制、活力ある日本社会の維持が目的だ。成功の一例に、岡山県の西粟倉村地方の「エーゼロ株式会社」がある。人口1500人の村の存亡をかけて起業家を育成し、仕事の創出や人材発掘などを行った。雇用数は90名に上り、企業の取り組みに共感した若者の移住者も獲得したという。

今後、地域が活性化すると共に、「地域分散型」の社会において新たな非常事態の災禍軽減につながることを願う。都心在住を望む人にも、地方に移住する未来が訪れるだろうか。

（佐瀬玲奈）

コロナ禍でも学びの継続を

新型コロナウイルスの影響によって、大学に行けない状況が続いている。通学だけでなく、アルバイトをすることが難しい状況にあるため、収入が減少し、進学や入学が困難となる学生が続出している。そのような学生支援として本学には、授業料延納制度が存在する。納付期限までに納入できない時は、「授業料延納願」を学生課に提出することで、一定期間の納付延長が認められるので、有効活用してもらいたい。また「学習院大学学生支援給付金」として、全学生にリモート授業の環境を整えるため6万円が支給される予定だ。

大学以外でも、国が出している方針として、大学に通うことが困難になっている学生に10～20万円支給する「学生支援給付金」も存在する。しかし支給対象者の基準がとても厳しく、給付金を受け取ることができる人は少ないと感じる。

改めて国の採用した政策を振り返ってみると、9月入学を検討したり、慣れないリモート授業に取り組んだりしている学生に対して、納得できる政策を採ることができていないのが現状である。政府には若者の未来を考え、学生に寄り添った支援策を期待したい。

（兼杉翼）

出勤不要？新時代へ

この数か月で人々の働き方に大きな変化があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため日本の多くの企業が働き方をリモートワークへと移行した。ここではリモートワークのメリットとデメリット、今後の働き方について考える。

今までは満員電車に揺られて会社へ行き、業務後は接待の飲み会に時間を奪われる生活だった社会人も多いだろう。しかし人との接触をなるべく減らさなくては感染防止に繋がらない。緊急事態宣言が東京都含む7都府県に発令された4月上旬から、出社せずに勤務可能な企業は徐々にリモートワークに移行した。

この変化のメリットは、まず通勤時間がなくなる点である。毎朝早起きし、満員電車に疲弊することがなくなった生活への喜びの声も多くみられた。さらに、休憩や仮眠を好きなタイミングで取ることができ、身支度をしなくていいという気軽さも挙げられる。

しかし、作業環境を整える手間や、モチベーションの低下という課題もある。また、子供がいる家庭は、面倒を見ながら仕事もしなくてはならない。外出もできずに、一日中同居人と生活をするストレスは大きいだろう。

さらに、アメリカのTwitter社は5月12日に、ロックダウン解除後も希望社員はリモートワーク可能と発表した。理由は「在宅勤務でも会社はうまくいくことが分かったから」である。海外の大手企業のこの決断は、日本の国内企業にも大きな影響を及ぼすと予想される。

今回のリモートワークの広がりは会社員だけでなく、企業側にも在り方を問いかけている。例えば、オフィスに出社する人数が少なくなればオフィスの敷地面積は現在よりも狭くて良い。つまり、本社の規模が小さくなれば賃貸料が削減できる。さらに言えば、土地を借りて本社を構える必要もなくなるかもしれない。今後は、本拠地を置くか否かという根本的な問題から見つめなおしていくべきなのだ。

この新型コロナウイルスの流行によって、オフィスで仕事をすべきだという固定観念が壊された。日本の働き方に革命が起こりつつあるのかもしれない。今まで皆が我慢していた長時間の満員電車、通勤ラッシュも今後は当たり前ではなくなっていく可能性がある。

我々が企業に就職する数年後には、新型コロナウイルスの流行は一段落ついているだろう。日本の働き方も幅広くなるはずだ。自分で勤務形態を選択できる未来も近い。さて、どちらを選ぼうか。

（長尾亜斗）

和の慣習～夏に楽しむ「甘酒」～

冬の飲み物という印象が強い甘酒。実は夏の飲み物であることをご存じだろうか。近年は「飲む点滴」や「飲む美容液」とも言われ、その高い栄養価に注目が集まっている。今回は、甘酒の起源から栄養素とその効果について紹介したい。

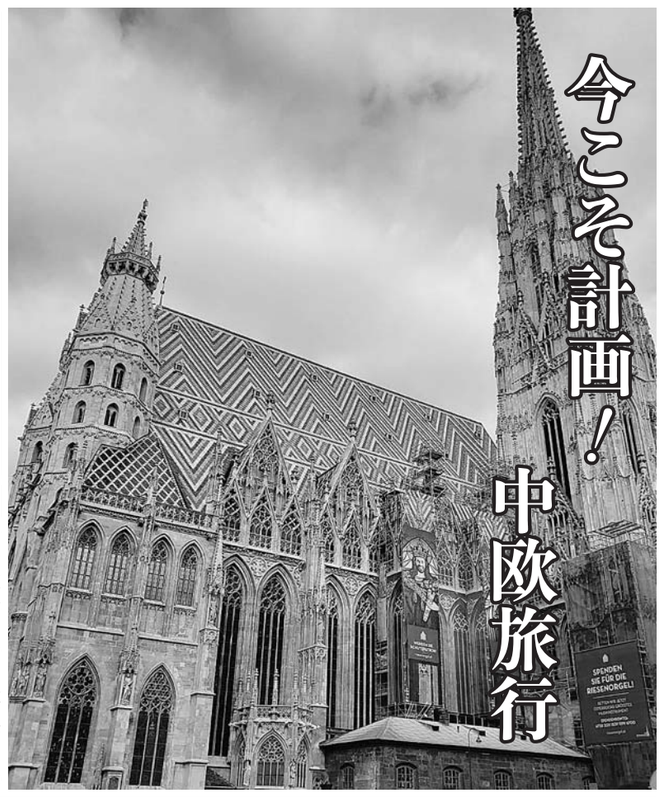
甘酒の起源は古墳時代にさかのぼる。そのころ原型である「天甜酒」が生まれ、現在の甘酒は江戸時代に流行した。現在のように充実した冷房設備がない中、夏の暑さを乗り切るには栄養が必要不可欠であった。そこで江戸っ子たちは甘酒の高い栄養素に着目し、夏バテ防止や疲労回復の栄養ドリンクとして好んだ。当時は一杯四文、現在の価値にして百円程度と手頃な価格で販売されていた。

次に、甘酒の効果を栄養素という点に注目して見ていくと、主に三つの点が挙げられる。第一にブドウ糖は、体内のエネルギー源を効率のよい吸収を助ける。第二に食物繊維とオリゴ糖は腸内環境を整え、便秘の予防や解消に作用する。第三にビタミンBが血行と代謝を促進し、老廃物を流すことによる美容効果など多くの効果が期待される。

最近では、ノンアルコールやフレーバーの増加、夏におすすめの冷やし甘酒といった、幅広い世代に飲みやすい工夫がされている。また、甘酒を使ったレシピも多く展開され、甘酒ブームは続いている。まもなく梅雨が明け、夏の厳しい暑さを乗り切るためにもぜひ試してみてはいかがだろうか。

（渡辺莉帆）

企画・構成　豊田　凛
取材　夏目拓真
　　門馬清登
　　長尾亜斗
　　兼杉　翼
　　渡辺莉帆
　　佐瀬玲奈



今こそ計画！中欧旅行

海外渡航が難しくなっている今だからこそ、旅行計画を立ててみよう。今号は、中欧旅行と、家の中で世界中を巡る机上旅行を紹介する。

魅惑の温泉大国 ハンガリー

初めに、ヨーロッパの温泉大国として有名なハンガリーの温泉と、観光スポットについて紹介していく。

ハンガリーは、日本に住んでいると馴染みが薄く、イメージしにくい人も多いだろう。しかしながら、ハンガリーには多様な魅力があり、日本との共通点もある。是非とも、本記事を通してハンガリーを知っていただきたい。

温泉は日本各地にもあり、多くの人が一度は訪れたことがあるのではないか。しかし、日本の温泉とハンガリーの温泉は、違いが多く見られる。そこで、特に観光客が多く訪れる、ルダシュ温泉に注目する。

この温泉は、16世紀オスマントルコ時代に建設された、ドーム型の天井と八角形の浴槽が特徴のハンガリー最古の温泉である。

ハンガリーの温泉は日本の温泉と比較すると、水温が低く設定されている。だがルダシュ温泉には、42度に調整された温泉も存在する。日本人にとっては快適な入浴を味わうことができるのではないだろうか。また、ハンガリーでは、混浴が馴染まれているという特徴がある。曜日によっては、ルダシュ温泉でも混浴を楽しむことができるため、若いカップルには人気があるようだ。一日中、ルダシュ温泉で、日々の疲れを癒すという贅沢な時間の使い方をしてみるのも良いだろう。

忘れてはならないのが、ハンガリーは温泉以外にも、多くの観光名所があるということだ。セーチェニ鎖橋や、マーチャーシュ聖堂、ブダ城、英雄広場など、挙げればきりがないほど魅力的なスポットが存在する。

次に、漁夫の砦に注目すると言っても、戦いに使用されたものではなく、街の美化のため建造されたものだ。漁夫の砦という名ものだ。漁夫の砦は、かつてこの場所で魚の市が盛んだったことや、ドナウ川で漁を営む漁夫たちがこの場所を守っていたことから、名付けられた。ドナウ川に対して、尖塔と回廊があり、対岸のペストができるのも大きな魅力である。

漁夫の砦

音楽の絶えない街 ウィーン

外出自粛要請が解除され日常を取り戻しつつある。とはいえ、旅行などの大々的な外出はしばらく難しいだろう。しかし、今だからこそ旅行が可能になった時の為に下調べをしてみるのはいかがだろうか。ここでは、オーストリア・ウィーンの魅力を探っていく。

ウィーンの観光地としてまず挙げられるのは、シェーンブルン宮殿だろう。ここは、世界遺産として有名だが、その歴史は中世にまで遡るほど長い。当初宮殿は、クロースターノイブルク修道院が所有する荘園であった。それから、数世紀にわたり所有者が移り変わっていった。ヨーゼフ皇帝が所有していた時は、彼のために狩猟用の宮殿へと改築が施され、皇帝カール6世の皇女マリア・テレジアの時にはシェーンブルンの再建、増改築によって住居用の宮殿へと変貌を遂げた。その後、ウィーン会議によりさらなる改装、皇帝フランツ・ヨーゼフによる改築がなされた。

このように、度重なる改装改築によって現在のシェーンブルン宮殿が出来たのである。歴史のある美しい宮殿として眺めるだけではなく、こうした歴史的背景を学んだうえで訪れるとまた一味違う観光が出来るだろう。

次に「音楽の都」と呼ばれるほど街中に音楽が溢れているウィーンにおいて欠かせないのは、ウィーン国立歌劇場であろう。ウィーン国立歌劇場の歴史は、皇帝フランツ・ヨーゼフが発した勅令から始まる。それにより、宮廷劇場である演劇場や歌劇場がリング通りと呼ばれる都市の中心部に位置するようになった。

その後、国家社会主義により、存続が危ぶまれるところまで追い詰められたり、第二次世界大戦で大きな被害を受けたりと幾度となく困難に直面していた。それでもなお、市民らが諦めることなく音楽的伝統を守り続けた結果、世界で最も重要なオペラ座としての地位を確立したのである。

このように、様々な困難を乗り越えた壮大な歴史を持つウィーン国立歌劇場は現在、現地に行かなくとも、パソコンやスマートフォンで舞台を観劇できるサービスを行っている。もちろん、現地での観劇が最適ではあるが、ウィーン国立歌劇場の舞台がどのようなものか予習して行くのも良いだろう。

今回は、シェーンブルン宮殿とウィーン国立歌劇場の二か所のみの紹介となってしまったが、魅力的な場所は他にも数多くある。この記事を読んだ皆さんは、ぜひウィーンを訪れ、その魅力を肌で感じてみていほしい。

（田村渚）

ウィーン国立歌劇場

地図帳で旅しよう

皆さんは、この自粛期間をどう過ごしただろうか。予定されていた旅行が中止となってしまった方や、自由に外出することができず、悶々としていた人も多いように感じられる。そこで今回は、自由に外出することができないからこそお勧めしたい「机上旅行」を紹介する。聞きなれないワードに少し困惑するかもしれないが、「机上旅行」とは、部屋にいながら旅行気分を味わうことができるいわば必殺技である。皆さんの家に、中高時代に学校から渡された地図帳が眠っていたら、ぜひとも取り出してみていただきたい。そこには、単なる世界地図や日本地図だけでなく、地域ごとの特色や名所、国の情勢など様々な情報が詰まっている。地図帳が家にない方も、この記事を読んで、地図帳を頭の中で広げていただきたい。

地図帳を開くと、一ページ目は巨大な世界地図が迎えてくれる。しかしそれだけではない。大陸別のGNI（国民総所得）はどのような順位となっているのか、エネルギー消費量は大陸ごとにどう違うのかなど、世界の基本情報について一気に知ることができる。著者が面白いと感じた項目は、世界のインターネット利用率だ。世界地図を通してみると、利用率が70%を超える国は、決して多くないことがわかる。序盤のページを覗いただけでも地図帳の情報量の多さに驚かされる。

ここで少しアメリカに旅行してみよう。アメリカまでページをめくると、様々な都市が紹介されている。ニューヨークを覗くと、道が全ての目になっており、歪みが一つもないことが分かる。そして、大都市の中に一際目立って存在するのが、セントラルパークだ。この場所も綺麗な直線を描いた土地で、皇居三個分だ。

地図帳は、様々な都市が詳細に説明されているので、旅行計画を立てたくなる。自分の部屋の中にいても、一ページめくるごとに新たな世界が迎えてくれる。

（大野千夏）

数字の羅列から広がる鉄道旅行

駅に掲示されている時刻表ではない。持っている人は少ないかもしれないが、日本中の列車の時刻が載った分厚い本がある。全国を網羅した物、首都圏に特化した物など種類があり、値段はどれも概ね1500円以内。机上旅行にうってつけのアイテムだ。

初めに下の写真を使って、時刻表の読み方を簡単に解説しておく。縦には駅名が、横には列車名が並んでいる。「909」などの数字は「9時09分」と読んで時刻を意味し、片仮名の「レ」はその駅を通過するという意味だ。そのルールに則って、「のぞみ19号」の時刻を見てみよう。東京を9時09分に出ると品川と新横浜に停車し、その次の停車駅は10時45分の名古屋。これでだいたい読めるようになったはずだ。

時刻表の醍醐味は、時刻の羅列を見ながら疑似的に「列車を乗り継ぐ」こと。試しに東京から奈良まで、平日ダイヤで机上旅行をしてみよう。

まずは東京から京都まで新幹線に乗る。ちょっと早起きして始発に乗ることにしよう。早起きが苦手で乗れないような時間帯の列車も、机上旅行なら問題なく乗れてしまう。

東京を6時ちょうどに発車する「のぞみ1号」に乗って、京都に着くのが8時08分。そこからページをめくって奈良線という路線に乗り継ぐ。京都を8時23分に出発、9時34分無事に奈良に到着だ。机上旅行なら帰りの席の心配もない。さて、大仏殿に行ってみようか、鹿に会いに行こうか。何をしても自由だ。

北海道から九州までひたすら乗り継いでみたり、何万円もかかる豪華列車に乗ってみたり。海外の列車が載った時刻表もあるので欧州行きも楽々だ。

待ち望んだ旅行がようやくできるようになったが、まだ慎重でいたいという人もいるだろう。それまであと少しの間、実際の旅行の練習も兼ねて、机上旅行をして待っていよう。

（張本辰哉）

画像：ＪＲ時刻表 2020 年 3月号／◎交通新聞社

芸術と歴史の街 プラハ

最後に、チェコのプラハにある、歴史や文化に大きく影響を与えた建築物に着目する。まず紹介するのは、聖ヴィート大聖堂である。これはプラハ城内に位置していて、建築に600年もかかった建造物である。中欧の後期ゴシック様式に、大きな影響を及ぼしたと考えられている。ゴシック様式は12世紀半ば頃に発展した様式で、代表的な建造物にはパリのノートルダム大聖堂がある。その名の通り、聖ヴィートが守護聖人となっているこの建物では、ステンドグラスが有名である。特に著名であるのが、ムハのステンドグラスと呼ばれるものである。訪れた際は是非見に行ってほしい。

二つ目はカレル橋に注目。カレル橋は、1402年に完成した橋だ。長い間プラハ旧市街と周囲とを結ぶ唯一の橋として、その役割を担っていた。当時は単に石橋、プラハ橋と呼ばれていたようだ。カレル橋の欄干には30体もの彫刻が並んでいる。その中で最も古いものは十字架像である。その中で最も古いものは十字架像である。そのオリジナルはプラハ国立博物館に展示されているので、レプリカが代わりに置かれている。そのレプリカも1629年に作成されたもので、十分に歴史がある。また、橋を守るための橋塔が三つあり、特に、旧市街側にある橋塔は、ゴシック様式の建築物として名高い。橋塔から眺める絶景も見どころだ。人々を繋いできたカレル橋を是非訪れてほしい。

続いて、火薬塔を紹介する。火薬塔という名前ではあるが、当初は、プラハ城を守るための要塞として建設された。その後、錬金術師の研究所、火薬庫、牢獄、そして管理人の住居として使われた。それらを経て、現在は、軍事歴史博物館になっている。またかつては歴代の王たちが戴冠パレードを行う際の出発点だったという歴史もある。ここからプラハ城までの2500メートルの道は、王の道と呼ばれている。そこを辿っていくことが、プラハの観光の定番になっている。また建築において、カレル橋の影響を受けており、類似点が多く見られる。王の道を辿り、プラハの歴史を感じてほしい。

締め括りは、旧市街地にあるプラハの天文時計である。プラハのオルロイとも呼ばれ、600年以上の歴史をもつ時計だ。この時計には、縦に二つの時計盤が並んでいる。上部にある時計は、プラネタリウムと呼ばれており、天体の動きや時間、年月を示している。これはプラネタリウムの原型と考えられている。下部にある時計はカレンダリウムと呼ばれており、農村における四季を描いた暦を示している。他にも骸骨が鐘を鳴らしたり、十二使徒が現れたりするギミックもあり、楽しみ方に幅がある。

まだまだ紹介することの出来ていないものが数多くある。是非自分の足で、プラハの街を体感してほしい。

（若林佑弥）

ムハのステンドグラス

中欧グルメ巡り

海外旅行に行ったら、現地グルメを味わいたい、という方も多いのではないだろうか。異国の雰囲気の中で新しいグルメを味わうのは格別だ。今回は中欧とびきりのグルメと、ちょっぴり大人なお酒について紹介したい。

まず紹介するのはハンガリー発祥の煮込み料理、グヤーシュだ。肉、ジャガイモ、タマネギをパプリカとともに煮込んだシチューで、パプリカの香りと爽やかな酸味が食欲をそそる。ハンガリーだけでなくオーストリアやドイツなど、中欧で広く食べられており、お店や家庭によって全く違う味のする、言わばヨーロッパ版の味噌汁だ。様々なお店の味を楽しむことができる。

次に紹介するのはオーストリアの定番肉料理、ウィンナーシュニッツェルだ。子牛のもも肉を叩き、薄く延ばして揚げたカツレツで、最後にレモンを絞って食べる。サクサクの衣と牛肉の歯ごたえがたまらない。付け合わせはヨーロッパでは一般的なジャガイモで、こちらも塩気があって美味しい。オーストリアを訪れたらぜひ食べてほしい。

今度は美味しい食事と一緒に楽しめる、お酒を紹介したい。中欧で特におすすめなのがチェコのビール。ビールというとドイツやオランダが有名だが、実は個人消費量が最も多いのがチェコなのだ。日本のビールとは違うコクのある深い味わいが特徴だ。多くの酒場の中でもお勧めなのが、長い歴史がある醸造所付きビアホールだ。古い酒場で自家製クラフトビールを飲むというのも楽しみ方の一つではないだろうか。海外ではチェコの十八歳のように飲酒年齢が二十歳以下の国もあるが、その国の法律をきちんと確認してから適量を楽しみたい。

異国の地で、日本では口にできない全く新しい地元の味を堪能するのもいいのではないか。

（佐野貴宏）

グヤーシュ

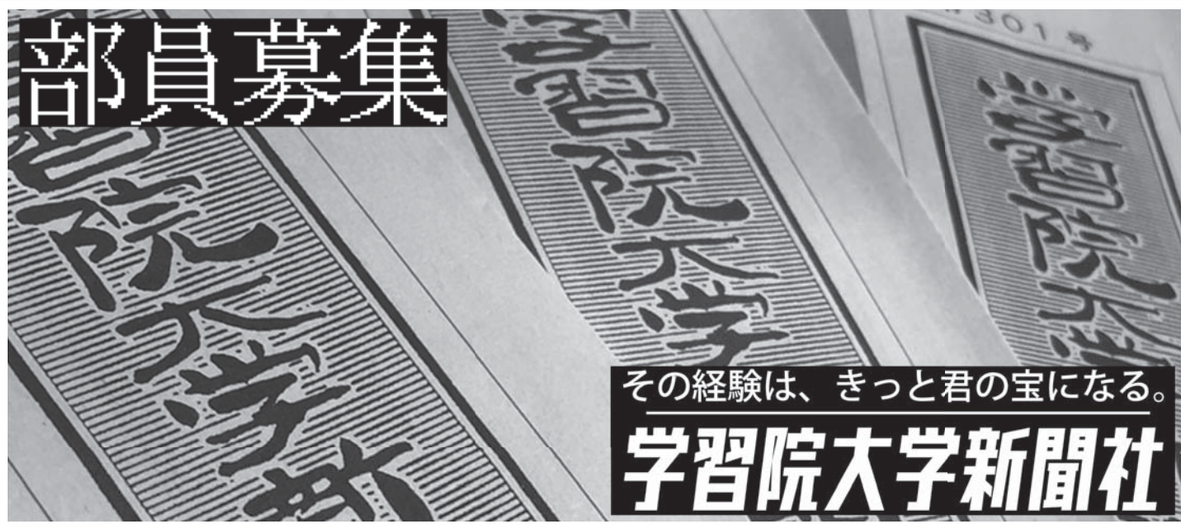
企画　佐野貴宏
構成・レイアウト　吉川真由
取材　飯田壮一
田村渚
若林佑弥
大野千夏
張本辰哉

「今からでも遅くない！こんなことしてみませんか？」

■大学で何か新しいことを始めたい！
■子どもと関わるのが大好きだが、なかなか機会がない！
■難しいことは抜きに、気軽に学内でボランティア活動をやってみたい！

一つでも当てはまったそこの貴女！
私たちボーイスカウトは子どもたちの*成長を見守ってくれるお姉さんたち*を探しています！！
ボーイスカウト東京豊島一団カブスカウト隊　連絡先⇒ LINE公式アカウント

ボーイスカウト豊島一団とは：小学三～五年生（CS課程）を対象とし、野外活動を通して自立心や創造心、グループでの協調性を養うことを支援する団体。



初心者から全国へ

水泳部 水球部門

水中の格闘技

テレビドラマの「水球ヤンキース」で注目を浴びたこの競技。プール内を縦横無尽に動き回る姿や、選手同士の接触の激しさから水中の格闘技とも呼ばれている。今回は水泳部水球部門の副将、池田修介さん（哲3）にお話を伺った。

池田さんに入部したきっかけを尋ねると「新歓のお食事会に行った時に、水球部門の温かくて体育会過ぎない雰囲気が自分に合うなと感じたからです」と答えてくれた。さらに、本学の水球部門の特色について「何と言っても、初心者中心のチームから強豪揃いの全国大会出場を目指していることだと思います。全国大会に出場するためには経験者しかいないチームを倒さねばならず、とても難しいですが、それゆえ魅力的なチャレンジだと思います」と語ってくれた。

現在、関東学生水球リーグ2部に所属している本学水球部門。全国大会出場権獲得には、2部リーグ2位以上の成績が必要とされる。昨年はリーグ戦で3位と、惜しくも出場権を逃した。しかし、新人戦ではリーグ優勝を飾っており、今後の活躍が期待される。

練習は構内にある屋外の大学プールで、週に5日行われている。オフシーズンとなる12月から2月は他大学の練習の参加に加え、筋トレなど週に2～4日活動しているそうだ。

水球は、泳ぎ、投球、バランス感覚といった多くのスポーツの要素を含む。この競技の魅力について池田さんは「陸上でボールを扱う競技はたくさんありますが、水中でボールを扱う競技は水球しかありません。陸上とは違い簡単に足や手を動かせない不自由な環境にはまた、一味違った魅力があります」と語る。

最後に「新歓がなくなってしまったことにより、新入生はサークルや部活を決められず、不安に思っていると思います。学内での活動が再開されれば、練習体験会や見学会を行うので、是非、大学プールに来てもらいたいと考えています。秋に大学プールでお待ちしております！」とコメントをいただいた。温かな雰囲気と、迫力あるプレーは必見だ。

（鈴木汐里）

愛馬と共に

Gakushuin Sports

馬術部

愛馬と共に駆ける

本学には、とても大きな馬場がある。他の大学にはなかなか無い珍しい施設なので、興味をひかれた人も多いのではないだろうか。今回は、4年間の大学生活を愛馬と共に過ごし、愛馬とともに駆け抜ける、そんな本学の馬術部へ取材を行った。

今回お話を伺ったのは馬術部の主将である卓さん（日4）だ。早速、馬術という競技についての話を伺うと「なんといっても、パートナーが『馬』である点が大きな特徴です。学習院大学の馬術部では、決められた演技を行い、その美しさを競う『馬場馬術』と、設置された障害物を素早く正確に飛び越えていく『障害馬術』の2つに挑戦することができます」と語ってくれた。馬場馬術と障害馬術はそれぞれ、日本で開催されるオリンピックの公式種目としても指定されている由緒正しい競技である。これらの競技のために馬術部員は日々、馬と心を通わせつつ、同時に心身の鍛錬も積み、切磋琢磨しているのだ。

本学だからこそ

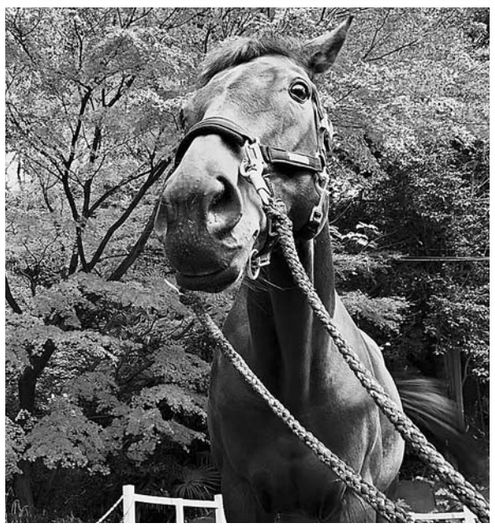
さらに、本学の馬術部ならではの特色については「本キャンパスと部の馬場の距離が非常に近いということが、大学馬術界の中でも本学の馬術部が誇る、大きな特徴の一つです。どの学科に所属していても馬場までずぐに来ることができるのは本学だけです。加えて、入部時に初心者から始める人が多いのも、本学馬術部の大きな特徴です。新しく馬術を始めたいという人も、安心して挑戦することができるようになっています」と話す。キャンパスと馬場が遠い大学もあるようで、大学の敷地内に部の馬場がある本学は非常に恵まれた環境であると言えるだろう。

また本学馬術部は馬場までの近さを活かして、部員主体で馬の世話を行っている。時には獣医やコーチなどの専門的知識を持った方々をお呼びし、新たに馬のことを学ぶ機会もあるそうだ。

本学馬術部は部員総勢40名で活動している。2018年の全日本学生章典馬場馬術競技大会では団体3位、同年の全日本学生馬術女子選手権大会では優勝など、輝かしい成績も収めている。そんな部の雰囲気について伺うと「馬という生き物を預かっている以上、部活動の時間は真剣に活動していますし、危ない場面では厳しく接することもあります。しかし、それ以外の時間では和気あいあいとした雰囲気で過ごしています。試合に出場できる人数は限られてくることもあるので競い合う時もありますが、それ以上に一つのチームとして馬と向き合っている時間が長いので、家族のように仲の良い関係になれます」と話してくれた。また普段は火曜から日曜の週6日、午前中の活動に加えて月曜日には当番制で馬の餌やりと清掃を行っているとのことだ。

最後に、卓さんから新入生へのメッセージをいただいた。「大学から何か新しいことを始めようと考えている人や何か挑戦することを見つけたい人は馬術部へ来てみませんか？4年間、充実した日々を一緒に過ごしましょう！」大きく環境が変わる大学生活、心機一転して、馬という凛々しい生き物と共に過ごしてみるというのもよいのではないだろうか。

（田中大貴）



【馬術インスタグラム】
GRS_1879

【水球インスタグラム】
GAKUSHUIN.WATERPOLO

【剣道インスタグラム】
GAKUSHUIN.KENDO

不屈の人間形成

剣道部

尽きない魅力

一対一で打突し合いながら心身を鍛え、人間形成を行う剣道。今回はそんな剣道の魅力について剣道部主務の柏田和希さん（政4）にお話を伺った。

本学剣道部の魅力について、柏田さんは仲の良さを挙げ、「先輩後輩の垣根を超えて仲が良く、練習で教え合って切磋琢磨しながら、心身を高めることができます」と語る。

柏田さん自身も、当初剣道部に入る気はなかったが、その仲の良さに取りつかれた一人だ。柏田さんは「大学で部活に入る気はありませんでした」と当時を振り返る。しかし、「先輩が優しく接して下さり、また強豪校出身の先輩方を見て、楽しみながらも成長していくことができる点に魅了されました」と話す。

活動は月曜日以外の週6日、2時間の練習だ。練習時間が授業と重なってしまったら授業優先でしっかりと出席し、代わりに朝稽古を行う。まさに文武両道の部活だ。

大会での実績は関東学生剣道選手権大会ベスト32、全日本学生剣道選手権大会ベスト32、四大学運動競技大会正式種目剣道で男女、共に優勝など確実に力をつけている。

新入生へ

最後に柏田さんから新入生へのメッセージをいただいた。「剣道部は先輩と後輩の仲がいいアットホームな雰囲気です。インターハイ上位入賞者から中学で始めた人まで様々な部員がいるので、自分を高めながらも勉強としっかり両立できます。最後の学生生活、仲間と一緒に最高の4年間にしていきましょう！」と語ってくれた。

練習後も各人で自主的にトレーニングするなど、成長への意欲はどの部活よりも高い。剣道部に入れば身体だけでなく、人間として確実に成長していけるだろう。

（安本尚輝）

From editor

目に見えないウイルスの猛威により、僅か3か月で世界が大きく変わってしまった。東京の街を当たり前のように歩いていた外国人は、今では珍しい存在となった。また、当たり前だと思っていた大学生活も、今は過ごすことが出来ない。本学では遠隔講義を導入・実施することにより、1ヶ月遅れではあるが、始業することが出来た。だが日常的な課外活動は中止となり、部活動やサークル選びに苦悩している新入生も多いことだろう▼ところで皆さんは、遠隔で行われる大学講義についてどのように捉えているだろうか。オンライン会議システムや、講義を配信する「オンデマンド」が採用された。自分の好きな時間にレジュメを読み、課される課題をこなせば成績がつく。例年より課題が増え、より大変になったと思う学生もいれば、楽になったと思う学生もいるだろう▼筆者は、大学教育というものが、今後大きく変わるかもしれないと期待を膨らませている。新型コロナウイルスの影響により、遠隔で講義を受けられる環境が各大学・各個人に一気に普及した。この環境を上手く利用することで、自分の所属していない他学部・他学科・他大学の授業を受けることが可能になるのではないだろうか。更に言えば、遠隔講義を導入する動きが世界各国で進んでいることから、海外の有名な教授の講義を日本に居ながら聴講できるかもしれない。もし実現すれば、これは大学教育に革命をもたらす可能性がある▼遠隔授業が普及することで、遠方に住んでいることにより大学進学を諦めていた人も進学が叶う。大学へ進学する場合、現状は多額の費用を用意する必要があるが、学生数が増えることにより、一人あたりの授業料も減額されるかもしれない▼この危機により、今まで当たり前であった事が大きく変わる可能性がある。私たち学生は、その変化にいち早く適応し、この危機を乗り越えなくてはならない。（#）

学習院大学新聞　リモート編集の流れ

1. 編集会議(企画)
   - 対面での部活動中止のため、オンライン会議システムを活用して実施。
2. 割付決め
   - 各面責任者に必要書類を郵送。自宅で作業を行う。
3. 取材・記事執筆
   - 自宅で調査、執筆。
   - インタビューについては、ビデオ通話や文書回答を使用。
4. 入稿
   - メール・FAX等を駆使し、印刷所に記事等を入稿。
5. ゲラ修正期間
   - 出来上がったゲラ（仮組みした紙面データ）を、LINE等で共有。最終調整を行う。
6. 発行
   - 通常では紙の新聞を発行するが、活動中止期間は公式HPで公開。
   - G-portやSNSで発行をお知らせ。
7. 編集会議(反省)
   - オンライン会議を開き、発行された新聞を再読。次号への反省点をまとめる。

※関係各所と相談・調整し、リモート作業で発行可能であると判断したため、学習院大学新聞第317号（2020年5月25日発行）以降も通常通り発行しております。